

2021 年度統計関連学会連合第 3 回理事会・組織委員会 議事録

日 時：2021 年 12 月 18 日（土）15:00 – 16:00

場 所：オンラインにより実施

出席者：

【2021 年度学会連合理事】

応用統計学会	富澤貞男，松浦正明
日本計算機統計学会	小木しのぶ，山本義郎
日本計量生物学会	松井茂之，寒水孝司
日本行動計量学会	狩野 裕，岩崎 学
日本統計学会	樋口知之（理事長），大森裕浩
日本分類学会	宿久 洋，富田 誠

【連合大会実行委員会】 西井龍映 (2021)，小森 理 (2022)

【連合大会運営委員会】 久保田貴文 (2021)，飯塚誠也 (2022)

【連合大会プログラム委員会】 坂本 亘 (2021)，黒田正博 (2022) (委任状)

【JJSD 編集委員長】 青嶋 誠

幹事 阿部貴行，大草孝介，本橋永至

組織委員会・審議事項

0. 前回議事録の確認

前回の組織委員会の議事録が確認された。

1. 2021 年度連合大会報告及び決算

- ・ 久保田運営委員長（2021 年度）より，会計報告・決算報告が提出され，審議の結果，原案の通り承認された。また，会計および運営に関して以下の通り報告及び議論があった。
 - 収入については，今年も完全オンライン開催であったが，大会・チュートリアル収入および広告・展示収入の総額は昨年とほぼ同様であった。
 - 支出については，昨年と違い今年は最初から完全オンライン開催として準備したため，人件費や会議費・旅費が大幅に減少した。仮に昨年のようにハイブリッド開催にも対応できるように準備していた場合，昨年とほぼ同様の支出であったと考えられた。
 - 全体として，収入は昨年と同様であったが支出が減少したため，予備費は昨年に比べ約 200 万円増加した。

2. 2022 年度連合大会各副委員長及び委員について

- ・ 樋口理事長より，2022 年度の運営副委員長（2023 年度運営委員長）を竹内光悦氏（実践女子大学）に，プログラム副委員長（2023 年度プログラム委員長）を橋口博樹氏（東京理科大学）に担当頂

きたい旨の提案があり、承認された。また、下記の各学会からの選出委員について承認された。

- 2022 年度運営委員会

委員長：飯塚誠也（岡山大学）

副委員長：竹内光悦氏（実践女子大学）

応用統計学会：篠田 覚（横浜市立大学）

日本計算機統計学会：阿部寛康（京都大学），谷岡健資（同志社大学）

日本計量生物学会：井桁正堯（兵庫医科大学），野村尚吾（東京大学）

日本行動計量学会：森川耕輔（大阪大学）

日本統計学会：今泉允聡（東京大学），高田輝子（大阪市立大学）

日本分類学会：宇野光平（名古屋大学）

委員長推薦：石岡文生（岡山大学），小田牧子（防衛医科大学校）

- 2022 年度プログラム委員会

委員長：黒田正博（岡山理科大学）

副委員長：橋口博樹（東京理科大学）

応用統計学会：前園宜彦（中央大学），山本紘司（横浜市立大学）

日本計算機統計学会：兵頭 昌（神奈川大学），中村永友（札幌学院大学）

日本計量生物学会：土居正明（京都大学），篠崎智大（東京理科大学）

日本行動計量学会：加藤 諒（神戸大学）

日本統計学会：茂木快治（神戸大学），高部 勲（立正大学）

日本分類学会：林 邦好（聖路加国際大学）

委員長推薦：南 弘征（北海道大学）

- 2022 年度実行委員会

委員長：小森 理（成蹊大学）

実行委員：清見 礼（成蹊大学，副委員長），井上潔司（成蹊大学），榎本理恵（成蹊大学），齋藤 文（成蹊大学），山野井 瞳（成蹊大学）

- 会議後記録：運営委員およびプログラム委員の委員長推薦による委員追加については、昨年と同様の対応とする（基本的には承認することとし、各委員長から理事長に伝え、理事長から組織委員会に報告（メール審議）する）。

- 実行委員の追加についても、昨年と同様の対応とする（組織委員会の承認は必要としない）。

3. 2022 年度連合大会運営方針について

2022 年度の連合大会の運営方針について、以下の通り情報共有、報告および議論がなされた。

- 来年の新型コロナウイルスの感染状況によるが、ハイブリッド開催で準備を進めている。2021 年 4 月頃には最終的な開催方法を決定したい。統計関連学会の所属学会で実施・計画されている今年度のハイブリッド開催の学術集会で蓄積された経験・情報も活用したい。
- 学会業務委託について、2021 年度と同じ業者に委託する計画である。2021 年度と 2022 年度の運営

委員長間で業務委託に関する引継ぎは適切に行われている。

- ・ 樋口理事長より、2023 年度統計関連学会連合大会の開催地及び実行委員長は検討中であり、次回の連合理事会・組織委員会までには提案したい旨が報告された。

連合理事会・審議事項

0. 前回議事録の確認

前回の連合理事会の議事録が確認された。

連合理事会・報告事項

1. JJSD の現状について

青嶋編集委員長より、JJSD の現状について次の通り報告があった。

- ・ 編集委員会メンバーにおける女性の比率を適正化するために、青嶋編集委員長と Coordinating editor で人選を行い、候補者に依頼を行った。その結果、女性の比率は約 20%に改善した。
- ・ 2021 年 12 月号では、24 本の採択論文中 20 本が海外から投稿であり、雑誌の国際化が進んでいる。投稿・査読に関する問い合わせ数も増加しているが、青嶋編集委員長を中心に丁寧に対応している。
- ・ JJSD が創刊された 2018 年に比べ 2021 年の雑誌の総頁数は約 3 倍 (435 頁から 1321 頁) に増加し、論文の分量についても順調に充実化している。
- ・ 2023 年の企画についても青嶋編集委員長を中心に調整中である。

2. 後援・協賛について

樋口理事長より、前回理事会から本日までに、次の事業・会議に後援したことが報告された。

- ・ 応用統計学会：応用統計学フロンティアセミナー（2022 年 1/29）の後援

3. その他

- ・ 樋口理事長より、以下の通り依頼・提案があり、審議の結果、承認された。

■ 連合サーバー使用料として、連合大会の会計から 10 万円を連合本体に支出する。

■ 組織委員会の運営費として、連合大会の会計から 70 万円を連合本体に支出する。

- ・ 樋口理事長より、次の点が報告された。特に、JJSD の科研費（5 年間）終了後も JJSD を安定的かつ継続的に出版するための運営方法を議論するためのタスクフォースを 2022 年度に発足したい旨の提案があり、了承された。タスクフォースには各学会から委員を選出頂き、6 学会からの支援方法（財政面を含む）などについて議論する。

- ・ 日本応用数理学会、日本数学会との 3 学会交流会へ参加（1/22, 理事長・副理事長）
- ・ 統計質保証推進協会との 2021 年度業務委託契約を締結
- ・ 日本学術振興会への JJSD 科研費関連の書類提出
- ・ 統計関連学会連合の 6 学会へシンポジウム情報などを周知依頼

次回連合大会組織委員会及び統計関連学会連合理事会：
2022年4月にオンラインで開催予定